



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年7月31日

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4569 URL <https://www.kyorin-gr.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荻原 豊
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 伊藤 洋 TEL 03-3525-4701
 グループ経理財務統轄部長
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	25,749	2.5	1,575	19.3	1,827	14.5	1,280	18.9
2019年3月期第1四半期	25,131	△5.0	1,320	△49.1	1,596	△43.1	1,077	△55.0

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △355百万円 (-%) 2019年3月期第1四半期 307百万円 (△90.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	22.36	—
2019年3月期第1四半期	14.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	168,548	120,423	71.4
2019年3月期	173,034	123,395	71.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 120,423百万円 2019年3月期 123,395百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	30.00	—	45.00	75.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	30.00	—	45.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	52,100	3.5	2,300	△19.4	2,500	△21.5	1,900	△14.3	33.17
通期	114,100	0.4	9,100	1.4	9,600	1.7	7,100	3.4	123.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	64,607,936株	2019年3月期	64,607,936株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	7,322,514株	2019年3月期	7,322,490株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	57,285,438株	2019年3月期1Q	73,783,188株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(業績予想に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、四半期決算短信とあわせて、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期における国内医薬品業界は、社会保障給付費の抑制を背景とした、薬価制度の抜本改革や後発医薬品の使用促進等の薬剤費抑制政策によって引き続き厳しい環境となり、市場は低調に推移しました。

こうした環境の下、長期ビジョン「HOPE100（～2023年度）」の実現に向けて策定した中期経営計画「HOPE100－ステージ2－（2016年度～2019年度）」の最終年となる今年度、当社グループは経営方針に「やり抜く力の発揮による変革の実行」を掲げ、最後まであきらめないマインドを持ち、目標達成に最大限注力するとともに、持続成長に向けた成長軌道の獲得に邁進します。中核事業である医療用医薬品事業においては、グローバルな競争力があるオリジナル新薬の創製、切れ目のない新薬の創出、新薬による市場の創造を最重要課題として捉え、重点的に取り組んでいます。また周辺事業の成長加速、及びローコストオペレーションの全社的な推進により収益力の向上を図り、引き続き成果目標の達成とステークホルダーの皆様からの支持、評価の向上に努めています。

当第1四半期連結累計期間における売上高は、医療用医薬品事業において新医薬品（国内）では主力製品の伸長、及び昨年度発売した製品等の売上寄与、新医薬品（海外）では、導出品の売上が増加したことにより、前期を上回る実績で推移しました。他方、後発医薬品の売り上げは減少しましたが、医療用医薬品事業合計として増収となりました。ヘルスケア事業の実績は横ばいで推移し、全体として売り上げは前年同期比6億18百万円増（前年同期比2.5%増）の257億49百万円となりました。

利益面では、原価率は若干上昇したものの、売り上げの増加等により、売上総利益は前年同期に対して1億67百万円増加しました。販売費及び一般管理費（研究開発費を含む）は、コスト削減に取り組み、前年同期に対して87百万円減少し、営業利益は15億75百万円と前年同期比2億55百万円の増益（前年同期比19.3%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、12億80百万円（前年同期比18.9%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績

売上高	257億49百万円	（前年同期比	2.5%増）
営業利益	15億75百万円	（前年同期比	19.3%増）
経常利益	18億27百万円	（前年同期比	14.5%増）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12億80百万円	（前年同期比	18.9%増）

セグメントごとの業績は、次のとおりです。

①医療用医薬品事業

〔新医薬品（国内）〕

薬価制度改革により国内医療用医薬品の市場構造が急速に変化する中、杏林製薬(株)は特定領域（呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科）の医師、医療機関に営業活動を集中するFC（フランチャイズカスタマー）戦略をベースとした独自のエリアマネジメントによる営業活動を展開しました。当第1四半期連結累計期間におきましては、中期経営計画の重点戦略に掲げる「新薬群比率の向上」の実現に向けて、主力製品の普及の最大化に取り組みました。喘息治療配合剤「フルティフォーム」は順調に伸長し、2018年11月に新発売した選択的β₃アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤「ベオーバ」の売り上げも増加しました。また同年8月にMSD(株)より販売移管した定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス点鼻液」が売上拡大に寄与しました。他方、長期収載品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」等の売り上げは減少しましたが、売上高は167億27百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

〔新医薬品（海外）〕

杏林製薬(株)において、広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン（導出先：米国アラガン社）」に関わる収入が前年を上回ったことから、売上高は3億76百万円（前年同期比157.3%増）となりました。

〔後発医薬品〕

モンテルカスト（キプレス）のオーソライズド・ジェネリックの売上減少を主因として、売上高は73億04百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は244億08百万円（前年同期比2.8%増）となり、セグメント利益は14億51百万円（前年同期比15.0%増）となりました。

②ヘルスケア事業

中期経営計画に掲げる育成戦略「環境衛生の事業成長と既存事業との連携強化により核となる事業を作る」を推進し、主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」は前年を上回る実績で推移しましたが、哺乳びん・乳首・器具等の消毒剤「ミルトン」の売上減少等により、当セグメントの売上高は13億41百万円（前年同期比3.9%減）となり、セグメント利益は72百万円（前年同期はセグメント損失8百万円）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

新薬メーカーにとって、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し、届けることが使命です。杏林製薬㈱は、オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力であるとの認識に基づき、自社創薬に国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションを加えることで、既存の創薬プラットフォームのさらなる活性化を進めると共に新技術（核酸、ペプチド、遺伝子治療など）の応用・育成に努めました。また外部創薬テーマの積極的な探索・導入を行うことで、ファースト・イン・クラス創薬に向けた活動を展開しています。

当第1四半期連結累計期間における国内開発の状況としては、前年度、申請準備中の段階に移行した3つの開発パイプライン（喘息治療配合剤「KRP-108P」、キノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977Y」、間質性膀胱炎治療剤「KRP-116D」）について、申請に向け最大限、注力いたしました。その他の開発パイプラインの臨床試験についても、積極的に推進しましたが、同期間における相移行はありませんでした。

以上の結果、研究開発費は25億23百万円（前年同期比2.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産は、流動資産が現金及び預金、仕掛品、原材料及び貯蔵品の増加、受取手形及び売掛金の減少等により14億94百万円減少し、固定資産は投資有価証券の減少等により29億91百万円減少したため、前連結会計年度末と比較して44億86百万円減少し、1,685億48百万円となりました。

負債は、流動負債のその他の増加、支払手形及び買掛金、未払法人税等、賞与引当金、繰延税金負債の減少等により、前連結会計年度末と比較して15億13百万円減少し、481億25百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の減少等により、前連結会計年度末と比較して29億72百万円減少し、1,204億23百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は71.4%となり、前連結会計年度末より0.1ポイント上昇しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点におきまして、2019年5月13日に公表した第2四半期連結累計期間および通期の業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,007	34,740
受取手形及び売掛金	52,635	46,674
有価証券	501	501
商品及び製品	12,924	13,059
仕掛品	3,198	4,006
原材料及び貯蔵品	9,297	9,922
その他	4,384	4,545
貸倒引当金	△45	△40
流動資産合計	114,904	113,409
固定資産		
有形固定資産	21,792	21,498
無形固定資産	3,401	3,294
投資その他の資産		
投資有価証券	29,799	27,338
退職給付に係る資産	88	—
繰延税金資産	1,529	1,511
その他	1,563	1,540
貸倒引当金	△44	△44
投資その他の資産合計	32,936	30,345
固定資産合計	58,130	55,139
資産合計	173,034	168,548

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,441	10,355
短期借入金	20,932	20,799
未払法人税等	815	372
賞与引当金	2,241	1,211
返品調整引当金	48	28
その他	5,999	7,891
流動負債合計	41,480	40,658
固定負債		
長期借入金	2,634	2,598
繰延税金負債	2,064	1,584
株式給付引当金	11	11
退職給付に係る負債	2,485	2,303
その他	963	968
固定負債合計	8,159	7,467
負債合計	49,639	48,125
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	128,999	127,664
自己株式	△17,707	△17,707
株主資本合計	116,744	115,408
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,925	7,219
為替換算調整勘定	56	55
退職給付に係る調整累計額	△2,331	△2,261
その他の包括利益累計額合計	6,651	5,014
純資産合計	123,395	120,423
負債純資産合計	173,034	168,548

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	25,131	25,749
売上原価	11,972	12,423
売上総利益	13,158	13,326
販売費及び一般管理費	11,838	11,751
営業利益	1,320	1,575
営業外収益		
受取利息	7	6
受取配当金	178	187
持分法による投資利益	6	2
為替差益	13	37
その他	81	43
営業外収益合計	287	277
営業外費用		
支払利息	6	20
減価償却費	2	3
その他	1	1
営業外費用合計	10	25
経常利益	1,596	1,827
特別損失		
固定資産除売却損	52	0
投資有価証券評価損	0	—
特別損失合計	52	0
税金等調整前四半期純利益	1,544	1,826
法人税、住民税及び事業税	151	289
法人税等調整額	315	255
法人税等合計	466	545
四半期純利益	1,077	1,280
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,077	1,280

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	1,077	1,280
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△824	△1,697
為替換算調整勘定	△79	△0
退職給付に係る調整額	132	69
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△9
その他の包括利益合計	△769	△1,636
四半期包括利益	307	△355
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	307	△355
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療用医薬品 事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	23,735	1,396	25,131	-	25,131
セグメント間の内部売上高又は 振替高	0	0	0	△0	-
計	23,735	1,396	25,132	△0	25,131
セグメント利益又は損失(△)	1,261	△8	1,252	67	1,320

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額67百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療用医薬品 事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,408	1,341	25,749	-	25,749
セグメント間の内部売上高又は 振替高	0	0	1	△1	-
計	24,409	1,341	25,751	△1	25,749
セグメント利益	1,451	72	1,523	51	1,575

(注) 1. セグメント利益の調整額51百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。